

平成30年度 第3回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（確定稿）

- 開催日時：平成30年9月11日（火）18時40分～20時40分
- 開催場所：田無総合福祉センター4階 第3会議室
- 出席委員：小野修平、荘雄一朗、富澤佳代子、野崎信行、阿壽子、
＜以上5名、敬称略、五十音順＞
- 出席役職員：妻屋良男、飯塚和幸、嶋田孝雄

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（平成30年7～8月）
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告表（平成30年7～8月）
- 資料 3：ボランティアコーディネート実績表（平成30年7～8月）
- 資料 4：夏！体験ボランティア西東京2018 参加者基本データ
- 資料 5：夏！体験ボランティア西東京2018 学校・勤務先別参加者数および種別ごと参加者数
- 資料 6：西東京ボランティア・市民活動センター予定表（9～10月）
- 資料 7：平成30年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（未定稿）案
- 資料 8：傾聴ボランティア養成講習会 事業実施企画書
- 資料 9：西東京ボランティア・市民活動センター アクションプラン（仮称）スケジュール
- 資料10：ボランティア・市民活動センター事業の基本方針
※アクションプラン（仮称）用に作成した資料です。
- 資料別冊：平成30年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録＜確定稿＞
- 資料別紙：ぼらんていあ倶楽部第103号
- 資料別紙：災害ボランティア養成講習会 受講者募集チラシ
- 資料別紙：西東京市災害ボランティアセンター設置・運営訓練 ボランティア募集チラシ
- 資料別紙：夏！体験ボランティア西東京2018 参加者アンケート集計結果
- 資料別紙：夏！体験ボランティア西東京2018 受入側アンケート集計結果

1. 報 告 事 項

(1). 業務報告（平成30年7月・8月）について（資料1～3）

- ・7月、8月は特技披露の活動が多い気がするが、普段からこのくらいの活動があったらどうか。
→暑い日が続いたので外に出る機会が少なくなったり、職員が夏休みで少ないことも影響していると思われる。

(2). 夏！体験ボランティア西東京2018の実施報告について（資料4～5）

- ・ここまで丁寧な受け入れはあまりない。
- ・「2年間受け入れがない」という課題については改善できないのだろうか。
→昨年も募集条件が厳しく参加者が来ない可能性を伝えたが、施設の方針ということで条件を

緩和できなかった。今年もそのままでということでの受け入れであった。来年は今年度の様子を受けて変わるかもしれない。

- ・小学生から大学生ということで意欲的に参加してくれる人が多いが、それが続いていかないことが課題だろう。ベテラン層が活動を引退された時に次世代の活動者がいない。細々とでも良いので活動を継続してもらえたら良いが、何か仕掛けは考えているだろうか。
→地域サポートリンクと協力して中学校でのボランティア講座を開催している。校長先生からは、今の中学生は忙しいのでボランティア活動をする余裕がないが、夏！体験ボランティアくらいなら参加は可能だろうとの話があった。本当は大学生など、即活動につながるような方に参加してもらいたいが、将来は実家に戻るという人も多いためなかなか定着しない。将来的に戻ってきてもらえる方法を模索している。
- ・小学生も忙しいだろうか？
→小学生はそうでもない。中学生は7～8月に部活の大会があるのでとても忙しいと思う。
- ・中学生を狙うメニューなら、そのあたりの日程を考慮したプログラムを提供できたら良いのではないか。
- ・小学生は何年生をターゲットにしているのか。
→最近では受け入れ先の条件設定が小学校4～5年生以上と、実質的に高学年になってきている。
→小学生は4年生で国語で点字の教材を使うので、ほとんどが福祉体験授業を行っている。小学生で一番気になるのは、やはりリスクマネジメントである。受け入れる側も慎重になるのはやむを得ないだろう。今年は猛暑で学校としても初めての対応をした。長い間の教員経験で初めてプールの中止にしたこともあった。そう考えると活動の行き帰りの心配があることは理解できる。
- ・なぜ夏休みに実施するのか。春に代えても良いのではないか。
→受け入れ施設が春先だと体制が整わない。また期間も短く参加のチャンスが少ない。異動や年度末・年度初めということもある。冬休みも考えられるが、年末年始があるということで断られる。
- ・小学生を増やすには、どのようなことをやるのかしっかり説明をしないといけない。多くは親と相談したり、親に参加しなさいと促されて参加することが多いだろう。
→小学校3年生以下で参加ができなかったり、中学生以上の参加募集の受け入れ先を希望した小学生がいて、諦めて帰られてしまった方もいた。
- ・ボランティア活動の内容も宣伝はされているのだろうか。
→冊子を作って配布したり、ホームページでも紹介をしている。ただ、活字での活動メニュー一覧はとっつき辛かったのかもしれない。また、受付が総合福祉センターのみなので、遠方の小学生はここまで来ることができなくて参加をあきらめるケースが出てきている。
- ・西東京市北部での受付はできないのか、人数的に難しいのだろうか。
→複数個所での受付はリアルタイムで受付人数を更新できないので、各施設等の受け入れ定員を超えてしまう可能性がありできない現状がある。
- ・北多摩北部地区の中では西東京市は参加者が多い状況。他市では少ないところだと20～30人しかいない。説明会に参加した人以外は参加できないという厳しい条件を設けているところもあるため、ほかの地域で断られた人も流れてきている可能性はある。
- ・小学生の高学年にターゲットを絞った場合には、やはり複数個所で受付ができる工夫が必要な

のではないか。

- ・期間を分けて受付する方法もあるのではないか。市外の高校生よりも市内の小学生に絞っても良いと思う
- ・千代田区では夏ボラは在住者のみを対象に実施している。最終的に地元に着してもらわなければ困るという判断だったようだ。
- ・中学生が忙しいとのことだが、皆が忙しいわけではないと思うので、参加できる余裕がある中学生が参加しやすいようにしてもらえると良い。

(3)．業務予定(平成 30 年 9 月・10 月)について (資料 7)

- ・運営委員およびセンター長等合同会議の今年の内容はどうだったか。
 - 3 地区から事例発表があった。板橋総合ボラセンからは、「いたばしまちの学校」の事例発表があった。2 つ目は調布市から「調布チャリティーウォーク」の事例発表、3 つ目は国立市から「くにたちカルタ」の事例発表があった。それぞれ観点は違うが、街を盛り上げていくためにはどうしたらよいかという視点で話しがされていた。西東京でも何かできることがあるのではないかと思わされる内容であった。
 - 山谷のまち歩きについての報告もあった。地域を歩くことで見えないところが見えてくる、関わりを持つことでつながりが生まれてくる。そこに可能性があるのではないか、また地域と一緒に考えていくことができるのではないかという話しがあった。
 - 「つなげる」とか「つながる」というのがキーワードであったと思う。いろいろな「点」の活動をいかにつないでいくかが重要だと感じた。

2. 審 議 事 項

(1)．平成 30 年度第 2 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録 (未定稿) 案について (資料 7)

- ・一部訂正の上、承認することとする。

3. 協 議 事 項

(1)．傾聴ボランティア養成講習会の実施について (資料 8)

- ・社協だよりは市報と一緒に投函されるのだろうか。
 - その通りである。
- ・昨年、参加せずに枠が空いてしまったことがあったので、参加費については事前支払制とし、支払いがなかった場合には、次点の人に声掛けをすることを予定している。

(2)．アクションプラン (仮称) の策定について (資料 9・10)

- ・全部で 18 項目ある。今回と 11 月の会議で方向性をまとめたい。
- ・理事会、評議員会へは意見具申という形になるが、スケジュールが厳しいので 3 月に完成させ、翌年度の理事会、評議員会への提出になる可能性がある。
- ・『地域福祉計画』や『地域福祉活動計画』、『アクションプラン』などの位置づけや関係性の説明

をしてほしい。

→『地域福祉計画』は西東京市が西東京市内の福祉を計画的に進めるための計画、『地域福祉活動計画』は社会福祉協議会が地域福祉を進めていくための計画。それぞれが相互に関係しており、社協だからできること、行政だからできること、そこが両輪のように関係しあって地域福祉が発展していくことをイメージしている。

→『地域福祉活動計画』を推進していくにあたって地域福祉を進める役割をもう少し掘り下げたものが、社協の『改革のためのアクションプラン』である。このほかに事業別の計画として、現在ボラセンで話し合われているような『ボラセンのアクションプラン(仮称)』がある。ボラセンに関わる人たちが見える範囲のところで計画を作りつつ、いくつかの事柄が社協全体のアクションプランにピックアップされるという関係性をイメージしていただけるとわかりやすいと思う。

- ・上位計画とすり合わせながら詰めていければよいと思う。

【1. コーディネート業務について】

- ・来年から社協の事務局が総合福祉センターに統合される。西東京市北部に住んでいる方々の負担が増加するので、何か良い手だてがあると良い。

- ・実施内容の「1. コーディネート」の「実施」と「検討・充実」の違いは何か。

→「実施」は従前通りの方法で行うことで、「検討・充実」はより良いコーディネートを目指して、実施をしながら検討して充実をさせていくという取り組みとなる。

→そうであるなら平成31年度から「検討・充実」で良いのではないか。平成31年度が検討や工夫のない年に思われてしまう。力を入れ続ける部分だとわかるようにした方が良い。

- ・ふれまちなどとの兼ね合いで32年度からの検討となっているのか。

→その通りである。これまでの議論を踏まえると31年度から検討は間違いなく入るだろう。

→そうであるならば、32年度からは「検討・充実・実施」で良いだろう。

- ・ここで決めるルールがこれから検討する他の事業でも共通してくる。そのことを踏まえて考える必要がある。

- ・「1. コーディネート」は31年度から「検討・充実・実施」で良い。

- ・「2. ボランティア等からの相談受付・集計」から「5. ボランティア・市民活動団体状況確認」について、あえて項目建てた理由はあるのか。

→委員長との話しの中で、実施内容の部分についてはボラセンの「事務執行計画」の項目をとりあえず挙げるということになり、項目として挙げている。

→毎年事務手続きとしてやっていることなので掲載しなくて良いだろう。

- ・実施内容の1番と6番が似ているが。

→1番はボラセンの中でのコーディネート業務の在り方、6番はほっとねっとやりんく、ふれまちとの関係性・連携の在り方について考えている。

→6番については社協のアクションプラン「地域活動者・団体をコーディネートするための一元的な体制の整備」と同じにした方が良い。

○実施内容は、「1. コーディネート」、「6. コーディネートの充実」(但し文言をアクションプランと同じようにする)を採用。の2～5番は削除。「1. コーディネート」は31年度から「検討・充実・実施」とする。

- ・目標数値については、「1. 相談件数」と「5. 新規登録者数」はアクションプランとの兼ね合いで項目として入れておく必要がある。
 - ・毎月のコーディネート報告の中で、辞退があると思うが、依頼件数から辞退を除いた件数で依頼件数を割り返したものがニーズ充足率となるのか。
→辞退だけでなく、見つからなかったケースなども除いた件数（＝紹介できた件数）で充足率を計算している。
 - ・現状と課題や方向性に沿うような目標数値にすることが必要。
 - ・新規登録者は70名だが高齢化により登録を辞退する人が増えている、ニーズが入ってこないところを加味した目標数値にする必要がある。
 - ・ニーズが入ってこないというところは、「ボランティアの依頼件数」で明確にできるだろう。
また、活動者の不足は「新規登録者数」で数値化できる。
 - ・「ボランティアの紹介人数」はニーズ充足率には直接関わってこないなので、あまり関係ないのではないか。
 - ・コーディネートにおいて個人を紹介することが多いので、団体に関する数値は今回は外してしまっても良いのではないか。
- 目標数値は、「1. 相談件数」、「2. ボランティア依頼件数」、「3. ニーズ充足率」、「5. 新規登録者数」の4項目とする。「5. 新規登録者数」は、一番上に持ってくる。

【2. 広報事業について】

- ・広報事業としては「ぼらんていあ倶楽部」、「ホームページ」、「SNSの活用」の3つあると考えられる。
- ・実施内容の「2. ぼらんていあ倶楽部の印刷・発送作業」と「4. ITによる情報の発信ホームページの更新」は1. 3にそれぞれ残っていれば削除しても良いだろう。
- ・具体的な対応の「③市民への情報の届け方を検討する。」という表現がわかりづらい。
→「SNSの活用」とはっきり書いてしまっても良いのではないか。
→「多様な媒体を活用した情報提供を検討する。」という表現にし、「SNSの活用」を実施内容に具体的に明記したほうが良いだろう。
- ・実施内容の「1. ぼらんていあ倶楽部の原稿作成・編集」の実施時期は、31年度から35年度まで、「検討・充実・実施」で良いだろう。
- ・目標数値を何か加えた方が良いか。
- ・目標（数値）の「倶楽部発行回数」について、今年度から6回発行から4回発行となったが、「やはり6回発行に戻したい」という意見があれば、計画に盛り込む必要がある。
- ・りんくやふれまち、ほっとネットなどとボラセンが一緒になった場合に、それぞれの予算が加わることで充実した広報紙とすることが可能だろうか。
→なかなかそのようにはならないと思われる。補助事業と委託事業というしほりがあるので、それぞれで予算がついている。ボラセンはボラセンでの予算（補助事業）の枠で支出することになるだろう。
- ・講座を実施する中で、ぼらんていあ倶楽部を見ての参加と、チラシを見ての参加はどのくらいの割合になるのか。
→ぼらんていあ倶楽部が2割、チラシ8割くらいと思われる。ただ、行事にもよるが公民館や

図書館、市民相談室でぼらんていあ倶楽部を手にとって申し込みに至る方も比較的多い。チラシは時期が来ると処分されてしまうので、どちらかというのは言い切れない部分もある。

- ・発行回数が減ってしまうというのはやはり残念だ。
- ・発行回数が減ることによる広報のやりづらさはあるか。

→年6回発行の時には別々の発行号で案内していたものが、同じ号での案内になってしまうこと、発行回数が少なくなるのでお知らせ等が旬の物でなくなってしまうことが課題である。

- ・ぼらんていあ倶楽部の強みは定期発行であり、次の号が来なければ置いたままにしてもらえるという点である。間隔があくのであれば、募集記事を減らすなど内容を変えていくことやホームページの効果的な活用が必要であろう。
- ・ボランティア登録者にぼらんていあ倶楽部が送られてくる時に、チラシも同封され同じ情報が提供されることが多い。講座の参加者募集の記事を縮小して、講座の報告を載せるほうが良い。
- ・それぞれの良さがある。4回発行だから先の予定までお知らせできるという良さもある。

ITが苦手な高齢者にとっては紙面の方が見てもらいやすい。一方、大学生などはITを使った広報の方が見てもらえるだろう。届いている相手が違うと思われる。

- ・チラシの予算とぼらんていあ倶楽部の予算の兼ね合いもあるが、ボランティア倶楽部は項目をあげるのみで詳細はチラシを見ていただくよう案内し、チラシはタイムリーに公共施設等で提供するというようにすれば4回発行でも良い。チラシの内容とぼらんていあ倶楽部の内容がダブっているのは税金の無駄遣いだろう。
- ・目標数値なので、途中で6回の発行になったとしても良いと思う。特集号があっても良い。
- ・SNSについて目標数値を定めるかどうか、どのように活用するか検討してみないと数値化は難しいだろうか。
- ・ぼらんていあ倶楽部にQRコードを入れると若い世代には魅力的なのではないか。
- ・QRコードを作るのは大変なのだろうか。

→パソコンですぐに作ることができるので簡単である。

○実施内容は、「1. ぼらんていあ倶楽部の原稿作成・編集」、「3. ITによる情報発信ホームページの更新」、「5. SNSの活用による広報の充実」とする。

○目標数値は、とりあえず提案のままとする。

○「3. 夏！体験ボランティア事業」以降については、検討する時間がなかったため、次回以降に検討する。今後の進め方は正副委員長の打ち合わせ等で確認をする。

4. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

■開催日時：平成30年11月13日（火）18時30分～20時30分

■開催場所：田無総合福祉センター4階 第3会議室

●以上をもって平成30年度第3回運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。